

I はじめに

1. 事業のテーマ

「高機能発達障害学生が望む高大連携の在り方と大学の受け入れ体制に関する実証的研究」

2. 事業の目的および概要

昨今、発達障害者支援法、特別支援教育の施行と社会的な機運もあり、高等教育における発達障害者支援は急務であるが、実際に現場でどのようなニーズがあるのかははっきりとしておらず、特に大学進学の際に必要な支援や具体的な支援事例の先行研究はほとんどされていないことから、まずはそのニーズを探索することが本研究の第一の目的である。

今回、高機能発達障害学生が望む高大連携を考える上でその支援ニーズの直接的な起点となるのは、当事者及び保護者、高等学校、大学（短期大学、高専を含む）の三者であろう。本研究ではまず、その三者の実態と具体的な支援ニーズを明らかにしていくための調査が必要であると考えます。

また、現段階では高等学校での発達障害者支援に対する認識・理解が薄い可能性があることから、アンケート調査等で期待する程支援ニーズを発掘できなかった場合を想定して、実際に高機能発達障害生徒の進学指導等で困難を抱えたことのある高校教職員に対して個別事例を対象とした聞き取り調査を行うことも考慮に入れておく必要がある。また、可能ならばアクションリサーチとして、実際に進学を希望する生徒（発達障害傾向を有する）の支援を通じた支援ノウハウの蓄積も目的の一つとしたい。

大学での支援ニーズ発掘としては、本学が平成19年度に文部科学省から選定された学生支援GP『「オフ」と「オン」の調和による学生支援 ―高機能発達障害傾向を持つ学生への支援システムを中核として―』とタイアップし、実際に修学支援を行うなかで発達障害傾向を有する大学生が大学環境や高等学校との教育の質的な差にどのような戸惑いや困難を抱えるのかを探る。またそのなかで大学への移行支援を考える上で重要になるであろう“高等学校へ提供すべき情報”を抽出する。

最終的には、各調査により明確になった支援ニーズを基に、高大連携のモデルプランの作成または高等学校で進路指導の際に参考とするためのパンフレット等を作成し配布する。